

## 科学技術・イノベーションの総合的な推進について (ライフサイエンス分野の視点から)

総合科学技術会議基本政策専門調査会  
専門委員 庄田 隆

グローバルな競争が激しい科学技術分野においてイノベーションを推進するためには、強い政治的イニシアティブの下で、政府、アカデミア、産業が直接的な意見交換を定期的に行い、総合的に政策を進める大きな枠組みの設定が有効であると考ええる。

### 研究及び開発の推進システム

ライフサイエンス分野での研究開発は、実用化までの期間が極めて長いことから、早い段階から実用化に向けたアカデミアと企業が共同で研究開発を行う体制の整備を行うこと、基礎研究、橋渡し研究、臨床研究といった時系列での施策間の連続性を明確にするとともに施策間の重複を排除していくことが重要である。

とりわけ複数の府省にまたがる領域・テーマにおいては、府省間の連携や府省を越えた施策の一元化などによって研究開発資源の重点的な投入が可能となり、資源の効率化が図られることとなる。このような観点から、総合科学技術会議に研究予算配分の機能を委ねるなど司令塔としての役割を一層強化することが重要と考える。

また、科学技術の成果を効率的に利用し、次の研究あるいはイノベーション促進につなげるためには、基礎研究成果について真に有用な総合的データベースを整備する必要がある。さらに、世界に類をみない少子高齢化を目前にしているわが国では、各種医療データを統合した大規模医療情報データベースを構築することが、ライフサイエンス分野でのイノベーションの促進に寄与するものと考ええる。

### イノベーションの創出

イノベーションの創出には、バランスのとれた「競争」と「協調」の仕組みが重要である。異なる科学技術分野の融合、知的財産の相互利用など、共通の基盤整備においては、各アカデミア、各企業が協調して進めることが効率的であり、その基盤の上でそれぞれが競争によってイノベーションを創出していくものであると考える。

近年、創薬技術の獲得が民間企業の個別研究だけでは困難になっており、シーズ探索や技術開発戦略において外部資源の獲得(オープン・イノベーション)が重要になりつつある。オープン・イノベーションを進めるためには、その担

い手であるアカデミア、ベンチャー、企業との連携を促進することが重要な課題である。

アカデミアと企業との連携においては、人材交流が活性化されない要因を取り除き、相互の緊密な連携を促進する土壌作りが必要である。

ベンチャーにおいては共同利用が可能な研究施設や製造設備などインキュベーション設備の整備、資金調達、知財戦略など総合的な支援策によって育成を図る必要があると考える。

以上